



株式会社レヴィ

会社・サービス紹介資料

様々な課題

これからの課題の本質とはなんだろうか？



経営、営業、開発…
役割によって視点や言葉が違う
せいで伝わっていない



なんとなくゴールイメージや
たどり着き方を揃えたつもり
だが実際はずれている



シニア/ジュニア、古参/若手
など経験の違いをうまく
伝えられないですれ違う

表面上の課題

DXしたいけれど、どこからやればよいか分からない

システムの設計や開発において手戻りが多くて困る

新規事業創出に取り組んでいるが、上手くできない

専門領域のハードスキル

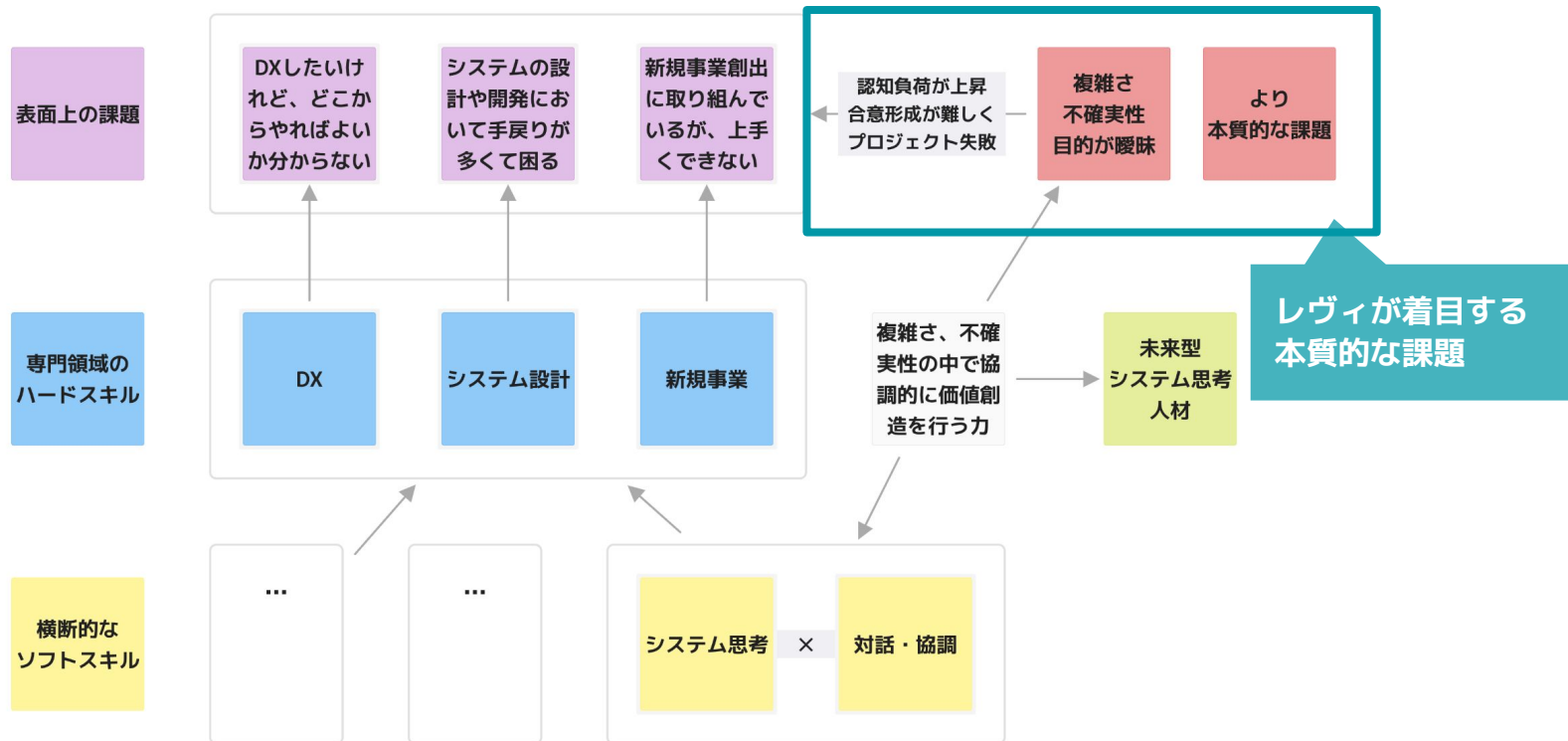
DX

システム設計

新規事業

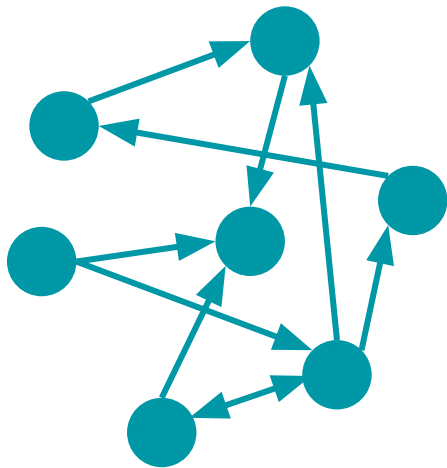
背後にあるのは複雑さや不確実性 = レヴィが着目する本質課題

複雑さ、不確実性が高い → 認知負荷が上昇、意思決定・合意形成が難しく



「複雑さ」とは？

複雑さは「要素」と「相互作用」から生まれる



- 多数の構成要素の間に多数の相互作用があり、ある要素を変更した場合の影響が、どこにどのように現れるか分かりづらい。
- 個々の構成要素の性質や振る舞いが分かっているにもかかわらず、それらが相互作用を持つと全体の振る舞いがどうなるか予測が難しい。
- 分野横断的で、幅広い専門分野の知識や技術が必要とする。様々な専門家が協力する必要がある。
- 関係者が多く、要求や制約が満たされているかどうかの確認が難しい。

複雑なモノゴト = 宇宙開発から生まれたシステム工学

非常に多くの要素(ロケット、通信、宇宙船 etc)と相互作用が宇宙開発を複雑にする

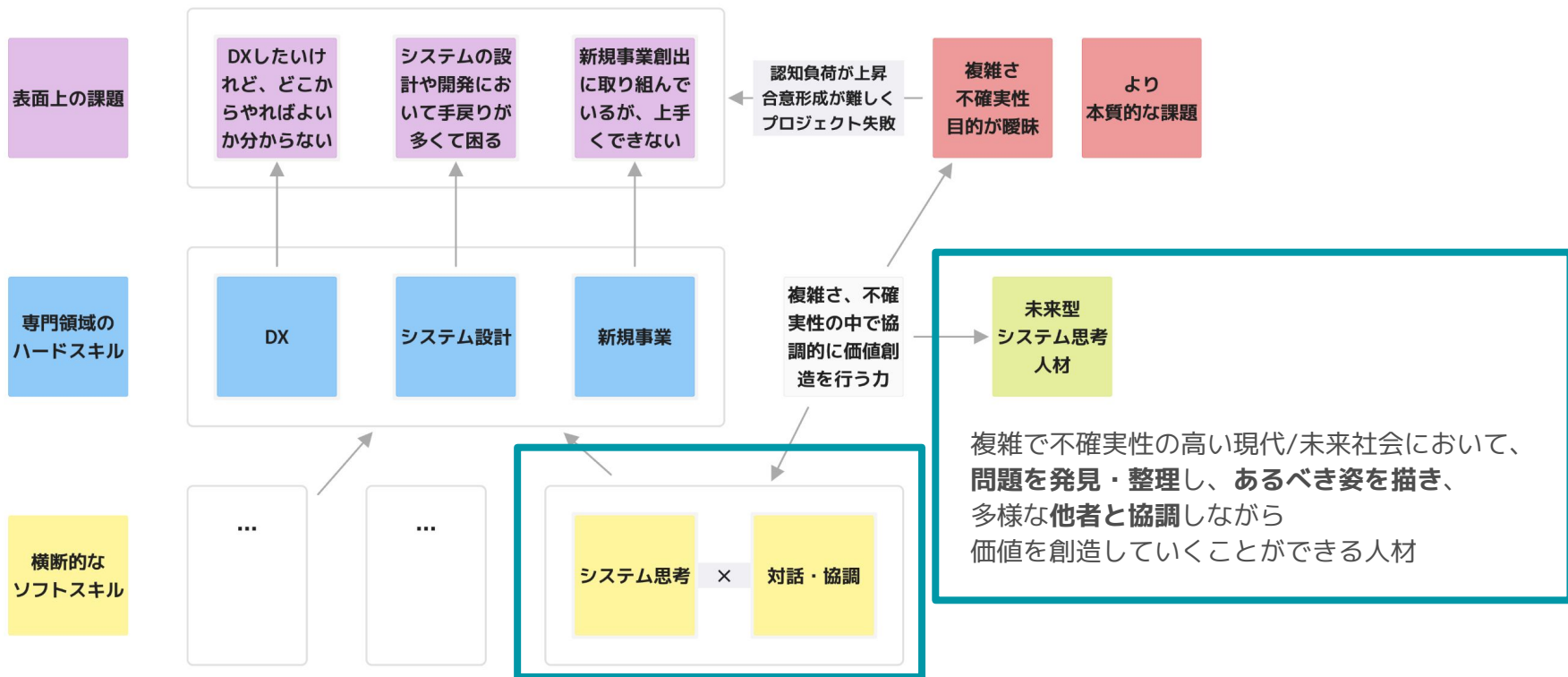


他の分野に先駆けて複雑さに挑んできた航空・宇宙・防衛などの分野で**複雑さに挑むための良い方法**が洗練されてきた。

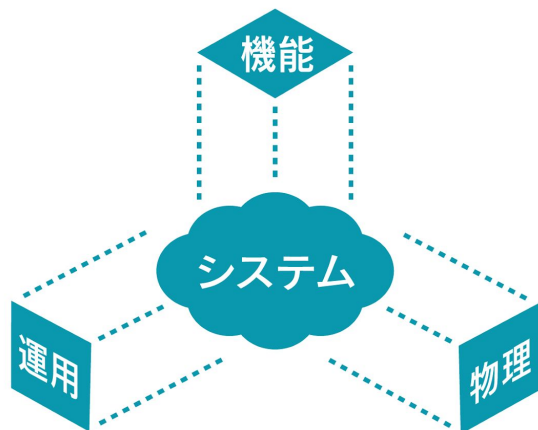
これを体系化したものが**システム工学**

レヴィの解決策

システム工学の要点を誰でも実践できるようにする = 未来型システム思考



未来型システム思考の概要



1. 視点をわける

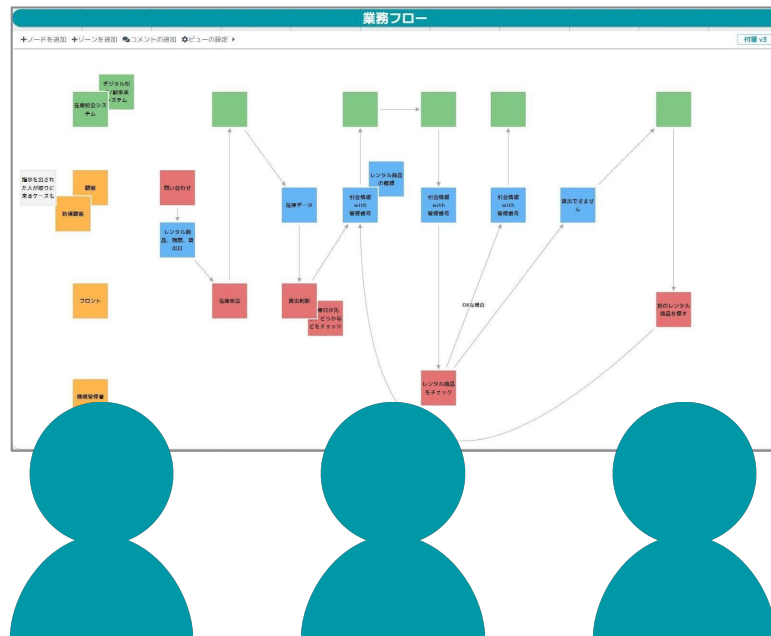
運用フローを実現するのに必要十分な機能が挙げられているか？
(整合性観点)

運用
フロー

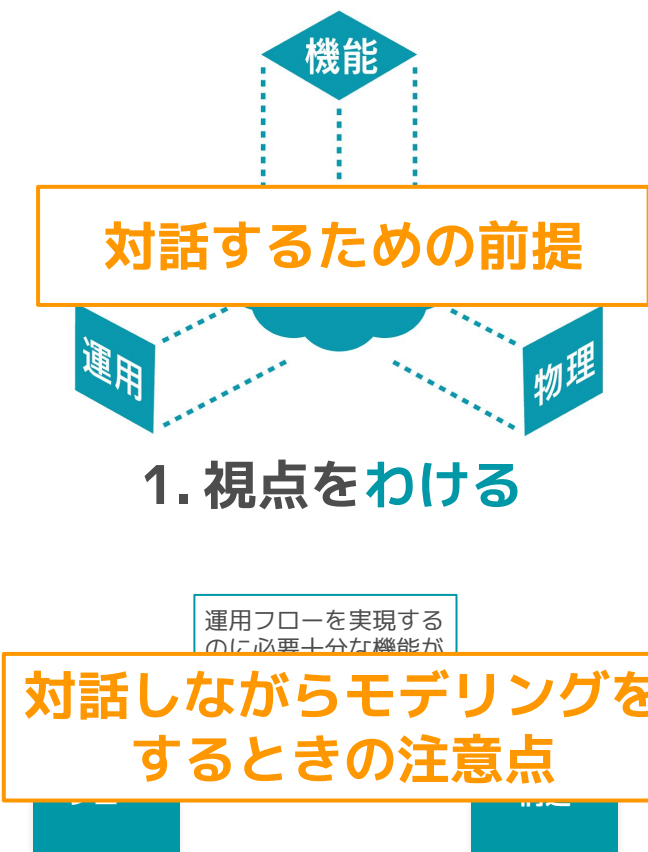
機能
構造

3. 視点をつなげる

2. システムモデルで対話する



未来型システム思考の概要



3. 視点をつなげる

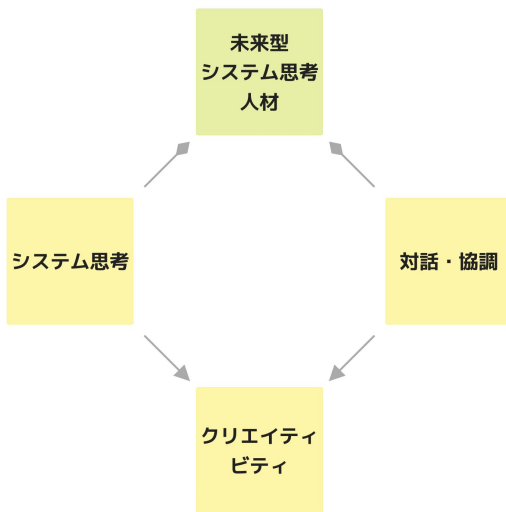
2. システムモデルで対話する



未来型システム思考人材

システム思考×対話・協調で複雑/不確実な状況でも対立を解決できる人材

- 様々な視点からモノゴトを見ることができる
- 抽象度を上げ下げして考えることができる
- 要素と関係性を整理して描くことができる
- 全体的・俯瞰的なところから考えることを忘れない

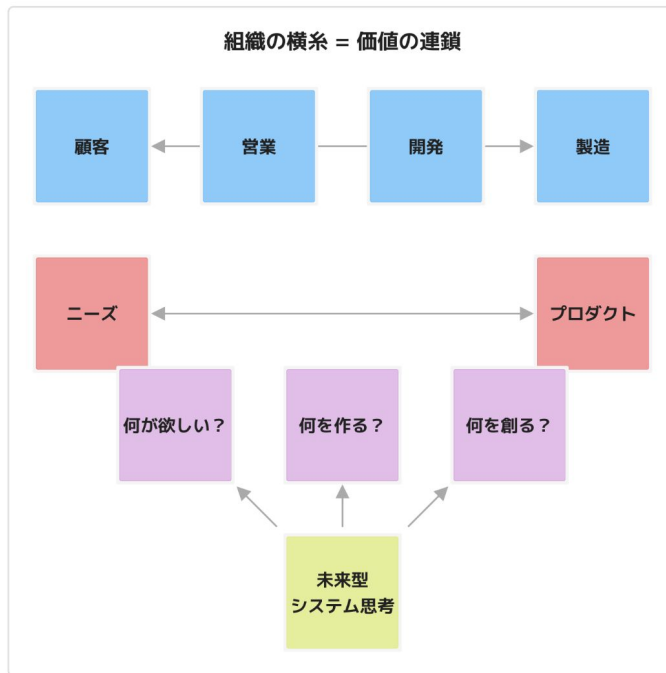
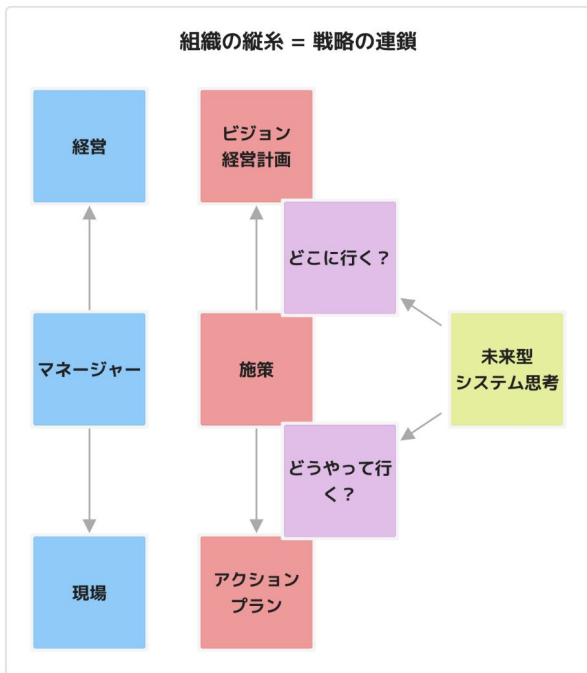


- 他者に考えや想いを伝える/他者の考えや想いを理解することができる
- 他者と対話しながら納得や合意を目指すことができる
- 他者と協調して問題解決に取り組むことができる

- 試行錯誤、フェイルファースト、アジャイルにモノゴトを進めていける
- 場所・時間・慣習にとらわれず、いつでも創造性が豊か

レヴィが描く、組織・社会の未来

多様な関係者が納得して合意形成に至る、だから本気の実行につながる



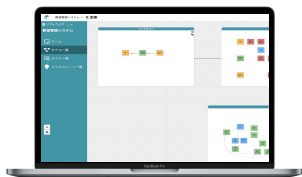
未来型システム思考が解決すべき社会課題

- 少子高齢化
→ 若年者と高齢者がどう同じ未来を見るか?
- 地域創生
都市圏と地方がどう融和するか?
- 気候問題
エネルギー資源の分配をどうするか?
- ...

レヴィのサービス

学び・実践・価値創出のサイクルにこだわり、未来型システム思考人材が育つ、活躍する

研修だけでなくツールと活用のための KATA を提供することで、学びと実務を直結させます。
ここまでやるのはレヴィだけ！



Balus

研修だけでなく業務実践の場を提供するためのクラウドモデリングツール。学んだことがその日から現場で実践でき、メンバーに共有 & ドキュメントとして残せます。



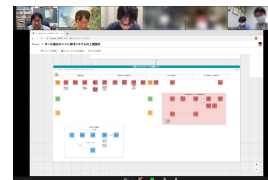
KATA

DX、新規事業、システム開発など特定の専門領域で未来型システム思考を実践できるようにパッケージ化したものです。お客様独自の KATA を作るお手伝いもできます。



研修・ワークショップ

システム思考や対話・協調を専門領域の課題解決を通じて学びます。個人での深い学びとグループでの対話を混ぜ、さらに業務課題を扱うことで実践の中で学びを深めます。



コンサルティング

Balus/KATA を使って、お客様と伴走しながら未来型システム思考で課題を解決します。効果がよくわからない、まずは課題解決したい、という場合にオススメです。

導入事例) 株式会社中海テレビ放送様

多拠点にまたがる新規事業/IT プロジェクトチームの合意形成を促進

Levii

ホーム Leviiについて システムデザイン研究所 サービス 実績 ブログ 資料・お問い合わせ



株式会社中海テレビ放送

Balusを用いた対話型モデリングによって、スムーズで手戻りのないサービス開発を実現

中海テレビ放送様が手掛ける地域新電力事業に関連するサービス開発において、Balusを活用したモデルベースな設計開発を実践しました。

<モデルベースな設計開発とは>

- ドキュメントではなくシステムモデルで設計情報を記述し、モデルをそのまま設計フェーズの納品物とした
- 実装フェーズにおける発注者（中海テレビ放送様）とベンダーの間の対話を、モデル

4社による、多拠点にまたがるチームを編成し、AI を使った電力に関する新規事業の開発を行った。

プロジェクト並走で Balus と KATA を活用し、チームでゴールイメージの認識を揃えながら設計開発を進めたことで、手戻りを防ぎ、開発コストを抑えることができた。



レヴィについて

専門領域 × 未来型システム思考のスペシャリスト集団



共創ファシリテーター
安達 賢二



カスタマーサクセス
五十嵐 智



エンジニア
牧田 岳大



SDI所長/マーケティング
三浦 政司



ストラテジャーアドバイザー
大久保 晋吾



エンジニア
幸田 将司



エンジニア/PdM
安西 剛



創設ファシリテーター
山口 雅和



顧問
鈴木 賢



顧問
竹内 芳樹



Dreamer
Tomo Yamashiki, Ph.D.



エンジニア
弓山 彬

レヴィは JAXA 宇宙科学研究所で研究していた仲間が集まって創業した会社です。当初は社長、南部の小型人工衛星開発をサポートするための放課後プロジェクトでしたが、その中でモデリングやシステム工学の持つ力 = プロフェッショナル同士がモデルを使って上流・超上流の構想を創り上げることに可能性を感じ、「未来型システム思考」を事業の中核として 2016 年に創業に至りました。

今では、宇宙、IT、組織、経営といった様々なバックグラウンドを持つメンバーが集結し、クラウドモデリングツール Balus やフレームワーク = KATA を使って、DX や組織改革、システム開発といった最前線の現場で未来型システム思考を使った自己変革を加速させています。

※メンバー一覧から抜粋、20 名以上のスペシャリストが未来型システム思考という軸で協働し続けています

主要取引先

規模の大小、業種を問わず、様々な企業に価値提供をしています



企業導入

- リコーITソリューションズ株式会社
- 株式会社竹中工務店
- 東芝デベロップメントエンジニアリング株式会社
- BIGLOBE 株式会社
- 株式会社中海テレビ放送
- 株式会社スタディスト
- 三洋テクノソリューションズ鳥取株式会社
- 株式会社GxP
- 公益財団法人未来工学研究所

その他、医療機器メーカー、ロボットベンチャー、電気用CADメーカーなど

学校教育

- 大阪公立大学
- 鳥取大学
- 神奈川工科大学
- 文部科学省宇宙航空人材育成プログラム「超小型衛星開発とアントレプレナーシップ教育を通じた宇宙システム活用人材の育成」に共同参画
- 高校生を対象にしたシステムデザイン教育に関する助言指導
- その他、小学生向けシステムデザイン教育など

株式会社レヴィ



- 創業 2016 年 5 月
- 資本金 352 万円
- メンバー約 30 名
- 代表取締役社長 南部陽介
- 所在地 東京都文京区本郷3-2-5 丸和ビル601号室
- <https://levii.co.jp>

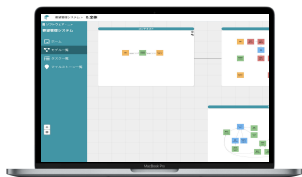
サービス詳細

未来型システム思考が育ち・実践に繋がる

レヴィのサービス

学び・実践・価値創出のサイクルにこだわり、未来型システム思考人材が育つ、活躍する

研修だけでなくツールと活用のための KATA を提供することで、学びと実務を直結させます。
ここまでやるのはレヴィだけ！



Balus

研修だけでなく業務実践の場を提供するためのクラウドモデリングツール。学んだことがその日から現場で実践でき、メンバーに共有 & ドキュメントとして残せます。



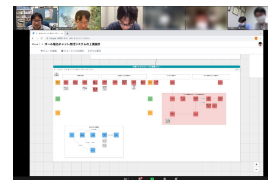
KATA

DX、新規事業、システム開発など特定の専門領域で未来型システム思考を実践できるようにパッケージ化したものです。お客様独自の KATA を作るお手伝いもできます。



研修・ワークショップ

システム思考や対話・協調を専門領域の課題解決を通じて学びます。個人での深い学びとグループでの対話を混ぜ、さらに業務課題を扱うことで実践の中で学びを深めます。

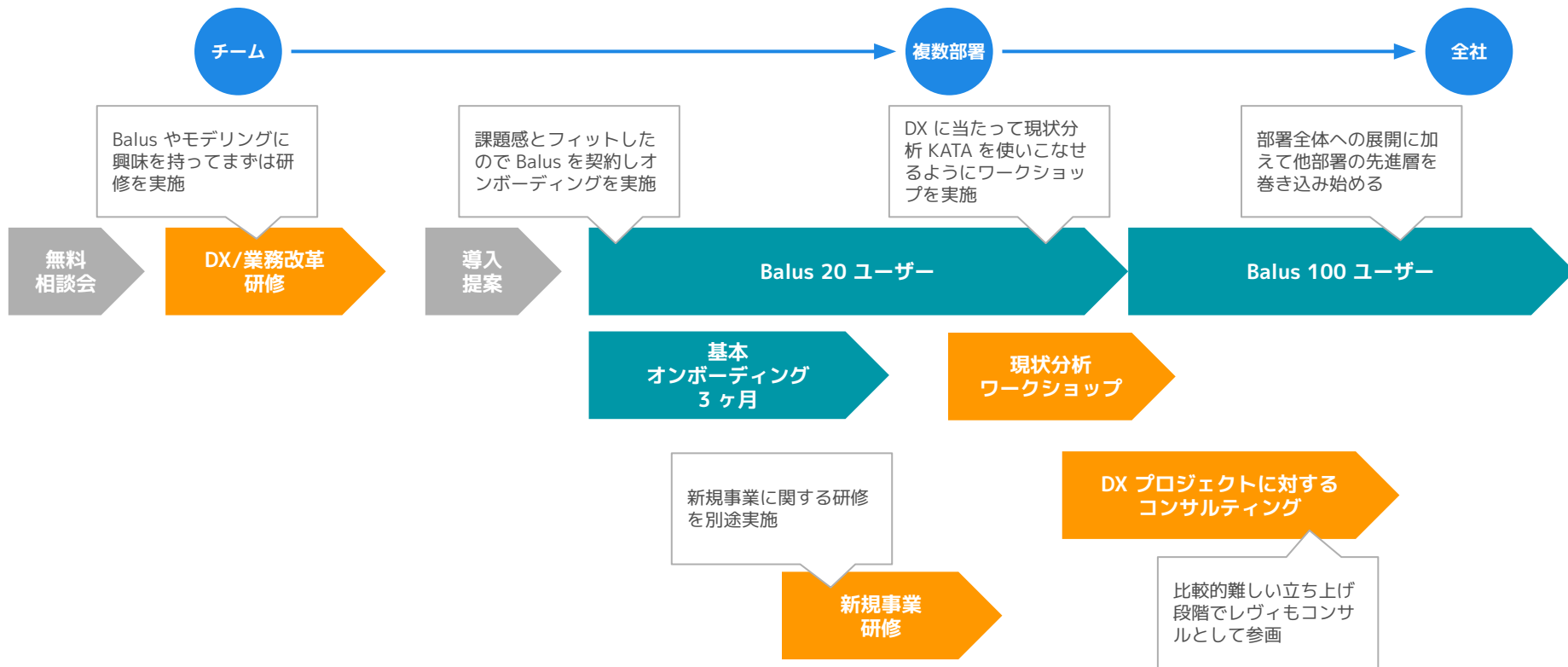


コンサルティング

Balus/KATA を使って、お客様と伴走しながら未来型システム思考で課題を解決します。効果がよくわからない、まずは課題解決したい、という場合にオススメです。

サービス提供例

チームの課題解決から全社での未来型システム思考実践へ



Balus

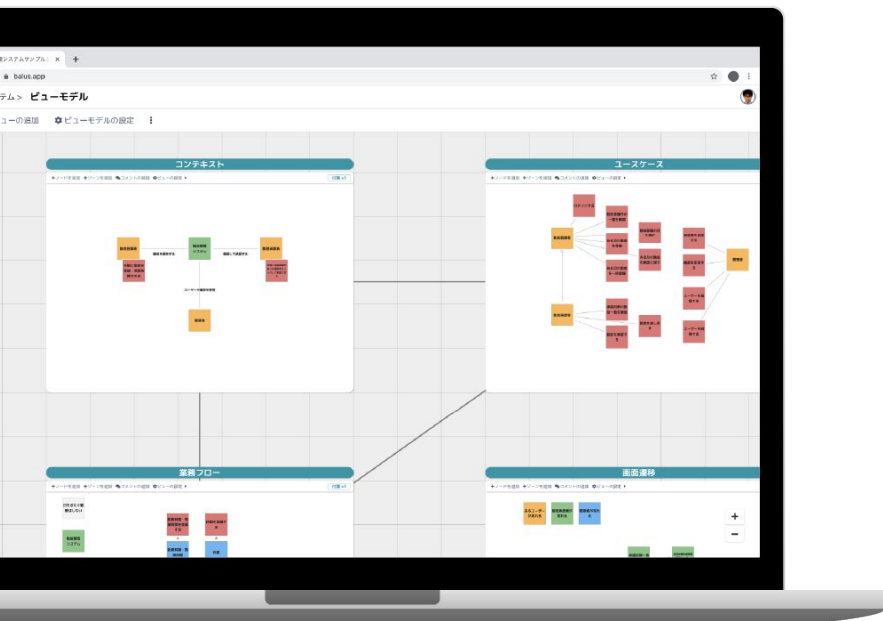
Balus とは

誰もが未来型システム思考を実践するために

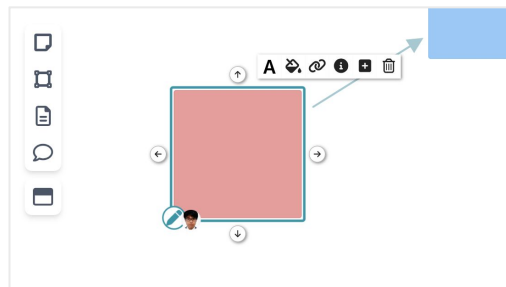
Balus (バルス) は、気づけば未来型システム思考を実践している、そんな使い心地を追求したWebアプリケーションです。

誰でも使えるということに重点を置いており、専門的な知識がなくても使い始めることができるようにデザインされています。

チームで未来型システム思考を実践するために考え抜かれた UX で、使っているうちに自然と未来型システム思考の重要なポイントを実践することができます。

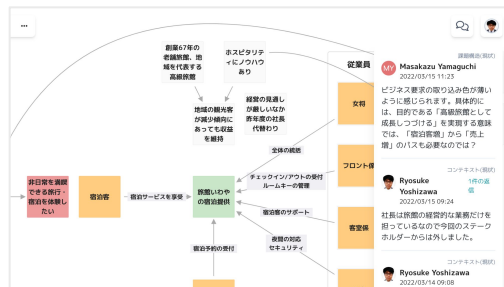


Balus の特徴



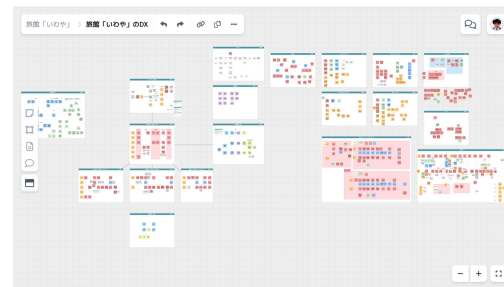
誰でも簡単に モデリング

付箋とペンを使うように、誰でも簡単に使い始めることができます。思考を妨げる無駄な機能はないので、自然にモデリングできます。



チームの 協調を生み出す

リアルタイムでも非同期でも、チームでコミュニケーションしながらモデリングできます。チームで同じ絵を見ながら議論することで、チームの協調を生み出します。

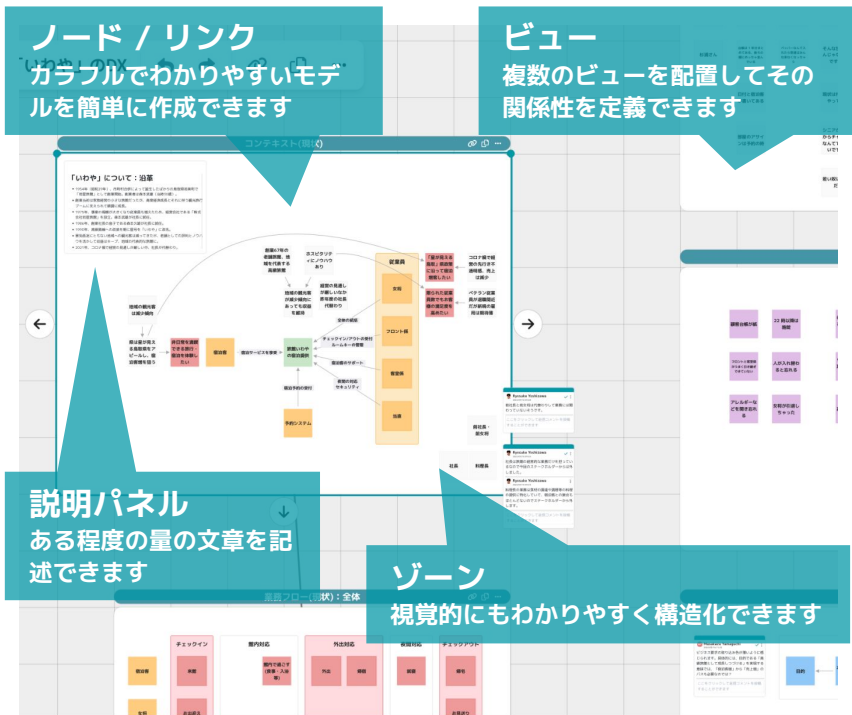


モデルを 資産として活用

作成したモデルを管理し、一步引いた視点や新しい視点から眺めて再構築することができます。これまでのやり方や考え方を改善し、チームの資産として活用できます。

Balus の機能: 誰でも簡単にモデリング

思考をそのままモデルに



これまで慣れ親しんできた操作で、思考を妨げることなくモデリングできます(例えば、コピー & ペーストや元に戻すといった操作)。

構造を表現するためのリンクの作成やグルーピング(=ゾーン)なども簡単にできます。

モデルで構造を表現するだけでなく、その背景や経緯といった情報を付加するための機能(補足説明、説明パネル)もあります。

モデリングのやり方も KATA として提供しているので、初心者でも安心です。この操作感は言葉で説明するだけでは伝わらないと思うので、是非体験してみてください。

Balus の機能: チームの協調を生み出す

どんな時でも、どんな人とも協調

同時編集 ...
リアルタイムでモデル・参加者のカーソルが反映されます

館内で過ごす
外出
帰宿

就寝

課題構造(現状)

MY Masakazu Yamaguchi
2022/03/15 11:23

ビジネス要求の取り込み色が薄いように感じられます。具体的には、目的である「高級旅館として成長しつづける」を実現する意味では、「宿泊客増」から「売上増」のパスも必要なのでは？

帰宅す

コンテキスト(現状)

Ryosuke Yoshizawa 1件の返信
2022/03/15 09:24

社長は旅館の経営的な業務だけを担っているなので今回のステーキホルダーからは外しました。

帰宅す

館内の入り・エンタランスの管理

コンテキスト(現状)

Ryosuke Yoshizawa
2022/03/14 09:08

コメント
モデルをベースにコミュニケーションできます

案内
夕食・朝食の提供

とお客様を合わせたメニューをご用意しております

夕食を準備中に布団を準備する、または、朝食を提供中に布団を片付ける

外出
帰宿

就寝

帰宅す

館内の入り・エンタランスの管理

帰宅す

館内の入り・エンタランスの管理

みんなで同じモデルを見ながら認識を揃えることが大事です。

Google の技術を使った極めてスムーズな同時編集機能や参加者のカーソル表示などで、まるでその場で一緒に作業しているかのような感覚でモデリングできます。

URL 共有の機能もあるので、普段と違うメンバーに参加してもらったり、ワークショップ的に使ったり、お客様と共有することも簡単にできます。

コメント機能などで非同期のコミュニケーションにも対応。フォルダごとに権限を設定できるので、セキュリティ上の心配もありません。

Balus の機能: モデルを資産として活用

すべてのモデルをフル活用

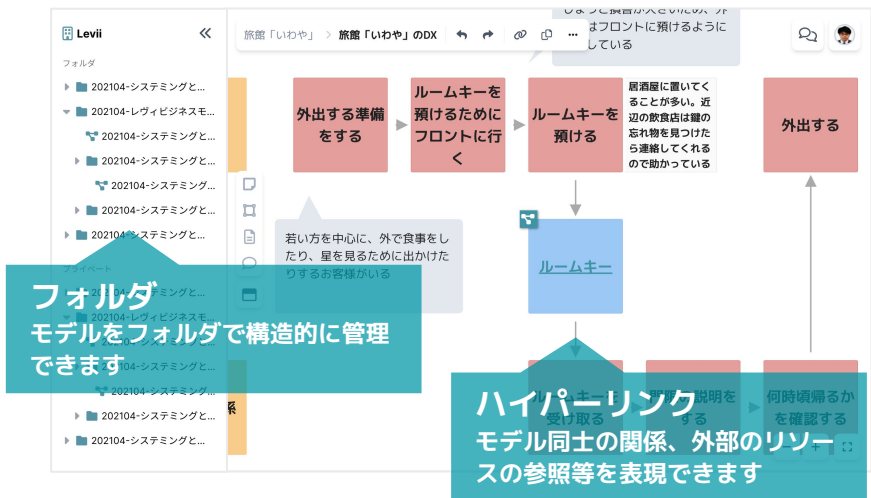
モデルができたならそれで終わりではなく、作成したモデルを広く組織内で展開し、資産として活用することも大切です。

資産として活用するためには、構造的な整理とモデル同士の関係性を表現することがポイントになります。(wiki をイメージしていただければわかりやすいと思います)

Balus では作成したモデルをチームやプロジェクトごとに階層的に管理しつつ、ハイパーリンクを使ってお互いに参照し、ドキュメントとして再構成、整理することが手軽にできます。

※ 画像は開発中のものです

※ 検索や他のドキュメントへの埋め込みなども随時検討、機能追加予定です



Balus の利用例

レヴィではこんな感じで使っています

フォルダの例

チームごと

営業

定例 MTG / ふりかえり

■ [モデル] 2022/08/31 ふりかえり

1 [モデル] 定例MTG

商談

■ [モデル] 2022/09/01 XXX社

■ [モデル] 2022/09/12 YYY社

Balus 開発

定例 MTG / ふりかえり

プロマネ

2 [モデル] システム全体像

開発

■ [モデル] カンバン

3 [モデル] 2022/08/01 XXX設計

[モデル] 2022/09 XXX開発見積もり

経営

事業構造

4 [モデル] 事業構造

計画、目標設定

5 [モデル] 2022/08/01 OKR

組織図

ページの自転車オンライン開発プロジェクト

6 [モデル] 2022/04/10 PJキックオフ

マイルストーン

XXXXXプロジェクト

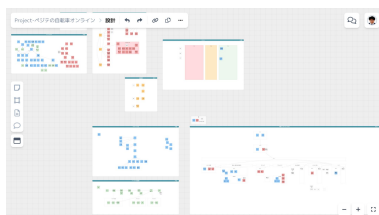
XXXXX

PJごと



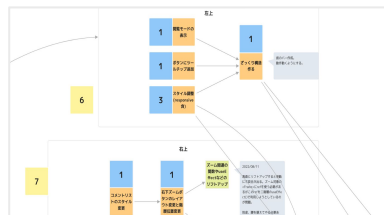
①定例MTG

MTGごとにビューを複製して使用。参加者と一緒にアジェンダを構築



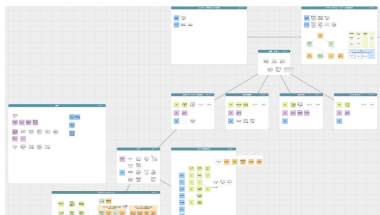
②システム全体像

顧客価値・業務フロー・ユースケース・概念構造・画面等でシステムの全体像の認識を捉える



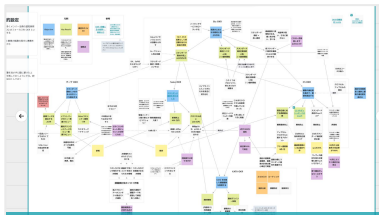
③設計・見積もり

開発の依存関係を可視化する。実装のクリティカルパスを見つけて見積もり



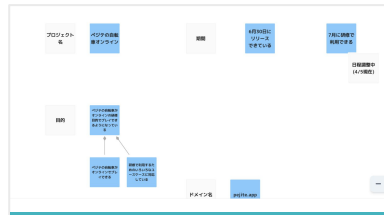
④事業構造

目指す事業の姿(顧客/マーケット、リソース、強み etc)とそこに至るステップを可視化



⑤OKR

事業全体の目標と各チームの目標との関係性を可視化。各チーム・個人のアクションに接続



⑥PJキックオフ

KATAを使ってゴール・期間・メンバー等をしっかり決めてPJを進める

Balus の活用、定着のために伴走します

標準サポート（無償）

課題整理 & 構造化
ヒアリング
[1時間、1回]

Balus 機能
説明 & 体験
ワークショップ
[1時間、1回]

オンライン
ヘルプ

ウェビナー
実践活用
ワークショップ
[月1回開催]

ガイドブック

活用事例
KATA ログ

有償サポート

課題整理 & 構造化
サポート
[1時間、2回]

定期
フォローアップ
MTG
[月1回 1時間]

活用・定着プラン
の作成、ご提案

活用状況の
可視化、共有

問い合わせ
対応

有償の研修、ワー
クショップ、コン
サルティングを割
引価格で提供

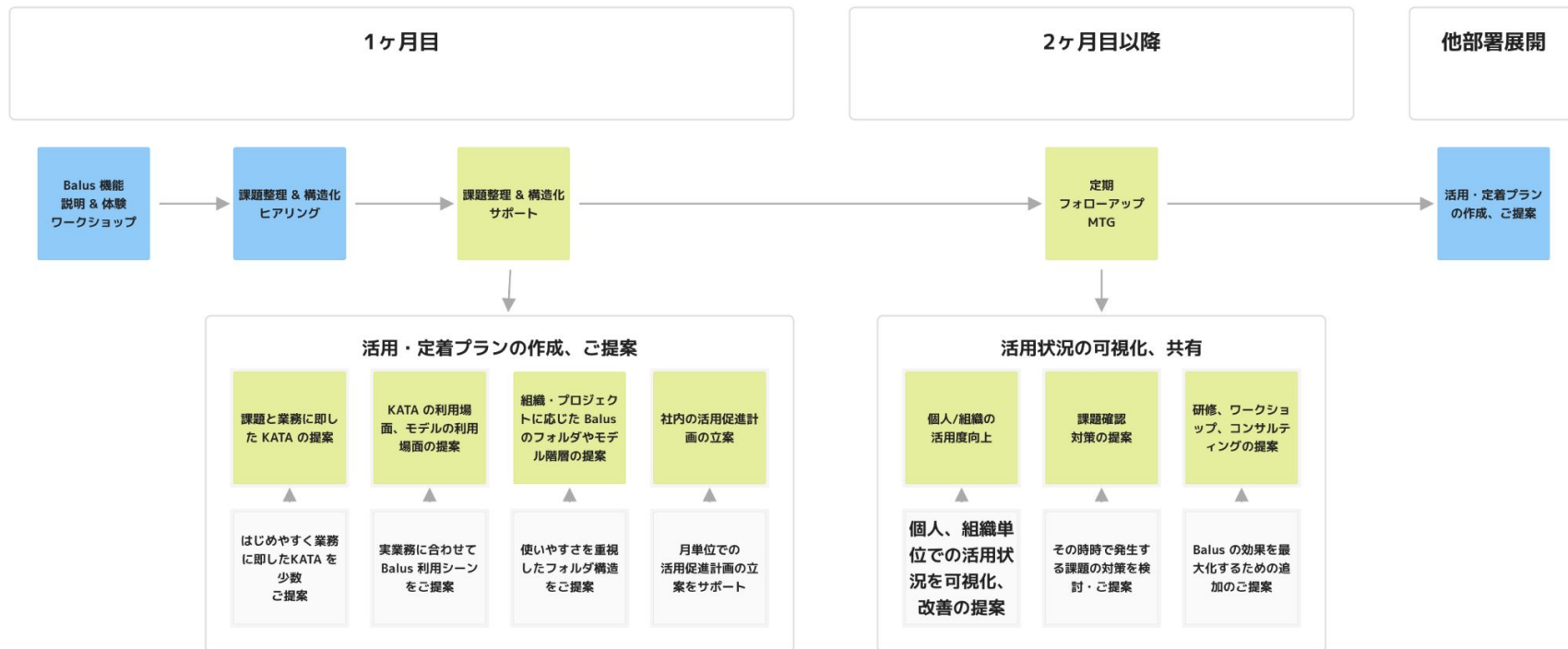
使い始めたばかりのサービスを業務に取り込み、すぐに成果を出すことは難しいものです。

サービスの使い勝手はもちろん、「どんな場面で使うのか」「どう使ったらいいのか」など組織の中で活用や定着を阻害する要因は様々です。

そこで、業務の中で自然にBalusを使えるように、業務課題の整理から、特定の KATA の利用まで、活用・定着をサポートします。

Balus サポートの内容・流れ

業務や課題に応じてプランを作成し、活用状況を可視化して改善するサイクルを回します



プラン

導入にご興味をお持ちいただけましたら1ヶ月間の無料トライアルも提供。
お気軽にご相談ください。

		スタンダード	※1 エンタープライズ
費用	月額利用料（1 ユーザーあたり）	2000 円	ご相談ください
機能	最低契約ユーザー数	10 ユーザー	50 ユーザー
	フォルダ数	無制限	無制限
	モデル数	無制限	無制限
	URL 共有	○	○
管理機能	SAML ベースのシングルサインオン (SSO)	×	○
	監査ログ	×	○
有償サポート	Balus サポート	10万円/月～ <small>※最低3ヶ月からの契約となります。他部署展開などで再度活用・定着サポートを実施する場合は割引があります。</small>	
	コンサルティング	別途資料にてご説明	
	研修・ワークショップ	別途資料にてご説明	

※1 エンタープライズプランは現在準備中のため、内容が変更される可能性があります

大学を始めとした教育機関での導入を推進



教育機関における教育や、営利を目的としない研究のために、低価格で Balus をご提供しています。5 名以内でのご利用の場合は無償のプランをご案内しております。

なお、アカデミック・プラン適用の可否を判断するために必要となる情報を提出頂く必要があります。

対象

日本国内の大学、大学院、短期大学、高等専門学校、専修学校、大学共同利用機関、大学校、職業訓練校

授業での利用事例：鳥取大学、大阪公立大学、神奈川工科大学など
課外活動での利用事例：超小型衛星開発プロジェクトなど

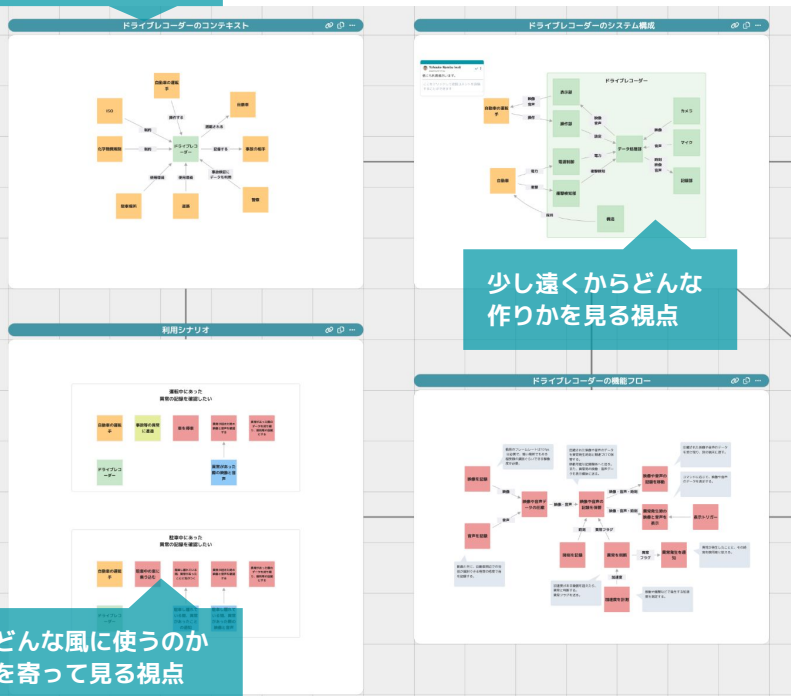


KATA

KATA とは？

よくある場面ごとに未来型システム思考のやり KATA をまとめたもの

遠くから関係者を眺めるための視点



少し遠くからどんな作りかを見る視点

どんな風にするのかを寄って見る視点

ある場面で Balus を使って未来型システム思考を実践しようとしても、慣れていないと「どんな視点で、何を対話したらいいんだろう？」と迷子になってしまいます。

KATA は既の実績のある「視点と対話のやり方」を手軽に再現できるようにまとめたものです。

例えばドライブレコーダーのような製品を作るとき、まず関係者(使う人や利用環境、法規制など)を洗い出すための視点で認識を揃えてから、どんな風に使いたいか？どんな作りが必要か？と考えて行きつ戻りつするとうまくいくことが分かっています。

ミーティングやブレストにも KATA があります。普段みなさんはどんな KATA を使っていますか？

KATAの役割

Balusで初めてモデリング実践する際の「壁」を低くし、実践を促進する

ふりかえりKATA

組織・チーム・個人が活動で得た経験や気づきを整理・共有し、以降のよりよい活動につなげます。

Balus テンプレート

Quick、YWT、KPT、YWT×KPTの4種から選択し、コピーして使います。

4種の使い分け方についてはFAQに概説しています。

QuickふりかえりKATA

会議など小さな対象を直後に、簡単にふりかえる際



YWTふりかえりKATA

やったこと (Y)、わかったこと (W)、次にやること
主に多くのタスクで構成された対象をふりかえる際



現状分析KATA

ステークホルダーとの関係性とタスクの流れの両面で分析対象の現状を見る化します。

Balus テンプレート

このテンプレートをコピーして使います。

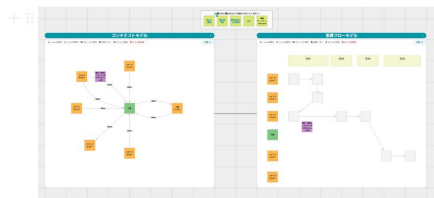
テンプレートには以下のビューが含まれています。

(1)コンテキストビュー

分析対象に関係する関係者や外部システム等との関係性を明らかにします。

(2)業務フロービュー

分析対象が持つタスクや手続きの流れを明らかにします。



現状分析KATA活用事例

現状分析KATAを活用してモデルを作成した事例です。

KATAは、Balusでモデリングを行うよくある場面を切り取って、テンプレート、実践事例、サンプル動画、課題と解決、使い方等の情報をパッケージしたものです。

KATAを活用することで、初めてBalusを使う/モデリングしてみる際の状況に応じて「壁」を低くすることができます。

■ケース1

「ふりかえりはどうやるとよいのだろうか?」という方
サンプル動画や実践事例で学んでからテンプレートをコピーし、使い方に沿ってやってみる。

■ケース2

すでにふりかえりは実践しているが、Balus上でのふりかえりが初めての方は、いつも使うふりかえりフレームワークのテンプレートをコピーしてすぐに実践する。

KATAの例1：ふりかえり KATA

メンバーの実務経験を個人とチームの成長、そして組織学習に変換する

ふりかえりKATA

組織・チーム・個人が活動で得た経験や気づきを整理・共有し、以降のよりよい活動につなげます。

Balus テンプレート

Quick、YWT、KPT、YWT×KPTの4種から選択し、コピペして使います。
4種の使い分け方についてはFAQに概説しています。

QuickふりかえりKATA

会議など小さな対象を直後に、簡単にふりかえる際に使います。



YWTふりかえりKATA

やったこと (Y)、わかったこと (W)、次にやること (T) の順にふりかえます。
主に多くのタスクで構成された対象をふりかえる際に使います。



<よくある課題や問題の解決>

実務担当者は、忙しく実務を行うあまり、実務で得た経験、ノウハウがなかなか定着しなかったり、定着した結果、属人化してしまうことがあります。

ふりかえりKATA を使うと、個人、チーム、組織が一度立ち止まり、それまでに実践した内容や経験等を整理して共有することで、メンバーの成長や組織学習が促進されます。

<4つの選択肢>

メジャーなフレームワーク“KPT”や“YWT”だけではなく、YWTとKPTを統合した“YWT×KPT”や、もっとも簡易にふりかえるための“Quick”を用意しています。

KATAの例2：現状分析 KATA

あるべき未来を創り出すために“現状”を知る

現状分析KATA

ステークホルダーとの関係性とタスクの流れの両面で分析対象

Balus テンプレート

このテンプレートをコピーして使います。

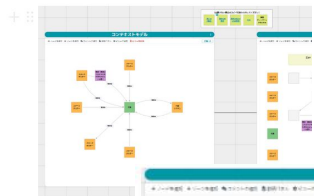
テンプレートには以下のビューが含まれています。

(1)コンテキストビュー

分析対象に関係する関係者や外部システム等との関係性を明

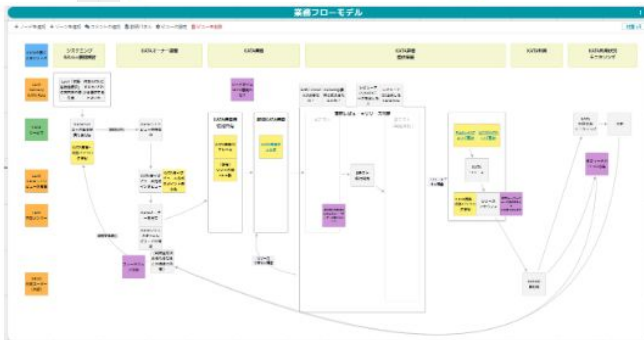
(2)業務フロービュー

分析対象を持つタスクや手続きの流れを明らかにします。



現状分析KATA活用事例

現状分析KATAを活用してモデ



<よくある課題や問題の解決>

実務担当者は、毎日のタスクや都度発生する問題解決に集中するあまり、他者の作業領域が捉えにくく、互いの作業連携が取れず思わぬ問題が発生したり、意見が噛み合わず揉め事に発展することもあります。

現状KATA を使うと、分析対象（例：業務）の現状を見える化し、存在する問題・課題の洗い出しを傾倒的に行うことができます。

<現状分析KATAに含まれるモデル>

現状分析KATAには、分析対象をとりまく利害関係者とその関係性を明確にする「コンテキストモデル」と、対象対象の現在の手続きの流れを表現する「業務フローモデル」が含まれています。

KATA/実践例がどんどん増えていってます！

Leviiの特徴を活かしたさまざまなシーンに活用できるKATA・実践例をラインナップ

日常のコミュニケーションで使う

チームを立ち上げる

チームビルディング

目標設定をする (OKR)

メンバー同士の期待を交換する

毎日の仕事をみんなで共有する：カンバン

定例・随時ミーティングを行う

- ミーティングKATA

みんなで意見を出し合いまとめる：プレスト&KJ法

チームでふりかえりを行う

-  (β版)ふりかえりKATA Ver0.8

短い時間でふりかえる (Quick)

定番フレームワーク1 (KPT)

定番フレームワーク2 (YWT)

ハイブリッド (YWT×KPT)

事業・製品・サービスを企画する

事業戦略のアイデア出す

事業価値を検討する

ビジネスモデルをサクッと作る

事業の価値を磨く

製品・サービスのアイデアを考える

製品・サービスを企画する

DX (デジタルトランスフォーメーション) を構想する

業務を可視化して改善する

現状を把握する

-  (β版)現状分析 KATA Ver0.8

現状をベースに新しい価値を創る

新しいビジネスモデルを立ち上げる

経営やマネジメントをする

ミッション・ビジョンについてみんなで考える

事業戦略を考える～みんなに伝える

ビジネスの状況を把握する

プロジェクトを管理する

プロジェクト概要や目的・対象等を明確にして共有する

プロジェクトリスクを可視化してみんなで握る

プロジェクトを計画する

プロジェクトの現状を見える化する

レビューやテストを設計する/管理する

ITシステムを開発する

関係者でシステムのあるべき姿を描く

ステークホルダーや価値を明確化する

業務の中でシステムをどう利用するかを考える

システムへの期待を網羅する

※ 情報を構造化して整理する

画面を洗い出す

非機能要件を洗い出して管理する

システムの詳細を設計をする

データベースを設計する

電子機器を開発する

作成中

医療機器を開発する

作成中

人工衛星を開発する(オススメ)

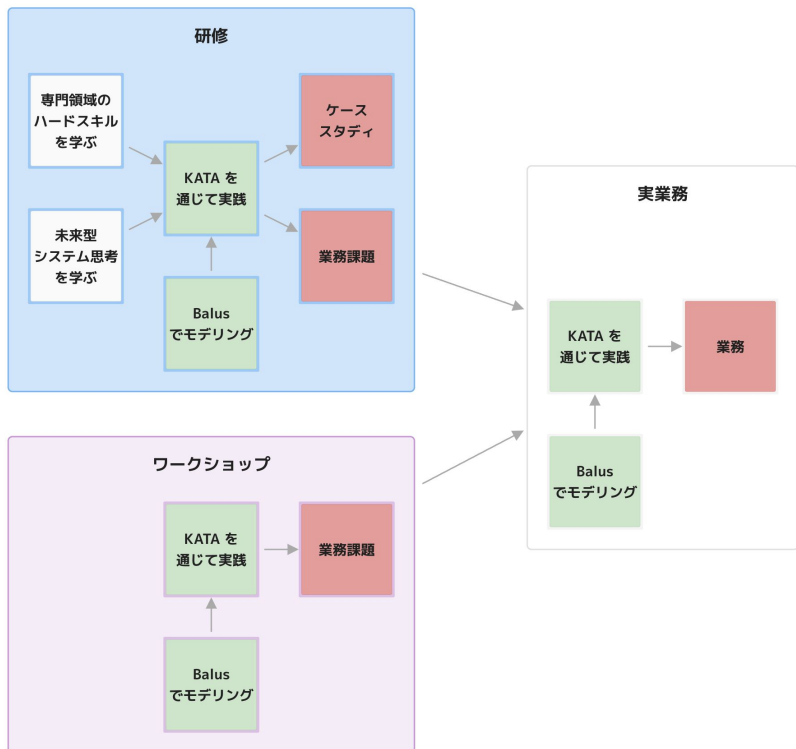
ミッションを検討する

衛星運用管理を設計する

研修・ワークショップ

レヴィの研修・ワークショップの特徴

KATA/Balus を通じて学び・練習が実践とダイレクトにつながる



レヴィの研修は「実際に業務で使っている KATA」を学び「業務でも使える Balus」で実践するので、実業務にそのまま持ち帰れるのが特徴です。

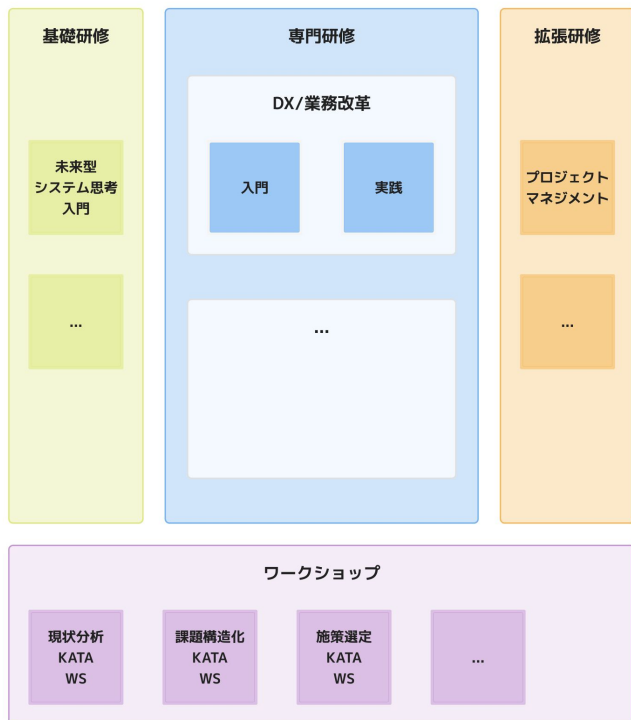
システム思考やデジタルといった専門知識の座学に加えて、例題による KATA のトレーニング、参加者の業務課題を持ち寄っての実践へと、段階的に、それでいてモチベーションが保てるように設計された研修を提供しています。

大学教育や豊富な研修提供の経験、実務の現場での具体的な学びの蓄積を組み合わせ提供しています。

専門知識をそれほど必要としない KATA についてはワークショップ形式での提供も行っているため、チームで手軽に実践したい、というニーズにもお答えできます。

研修・ワークショップの全体像

研修とワークショップを組み合わせる最適な人材育成を実現する



実務に必要なスキル・人材には幅があり、未来型システム思考や専門知識も全員が知るべき内容から、チームで数人が知っていれば良いものまで、ポートフォリオ的な発想が必須となります。

こういった要求を満たすために、システム思考の基礎的な考え方を学ぶための「基礎研修」、実務課題に応じて専門知識と KATA を訓練する「専門研修」、横断的に必要な知識を学ぶ「拡張研修」の3つの研修を組み合わせ、全社展開から少数の高度人材育成まで、いろいろなパターンでの提供が可能です。

また、追加的にワークショップを実施することで、活用度を高めたり、直接的な課題解決を実現することもできます。

研修の概要と価格

コース名	DX/業務改革		新規事業創造		システムズエンジニアリング		チーム・組織改革	
	入門コース	実践コース	入門コース	実践コース	入門コース	実践コース	入門コース	実践コース
時間	2時間 × 6回 (別に数時間の動画視聴と個人ワーク)	2時間 × 6回	2時間 × 6回 (別に数時間の動画視聴と個人ワーク)	2時間 × 12回	2時間 × 10回	2時間 × 12回		
概要	動画を主体にした学びと個人ワーク、チームによるワークを組み合わせることで深い理解に導きます。	参加者が実務で扱っているテーマを題材にし、より現場を想定した KATA の実践活用を促します。	動画を主体とした学びとグループワークを組み合わせ、知識習得と基本スキル獲得を目指します。	新規事業創造に向けた知識とスキル実践に伴走しながら週次でアドバイザー型研修を提供します。	動画を主体とした学びとグループワークを組み合わせ、知識習得と基本スキル獲得を目指します。	実業務の中にSEを取り入れるために、併走しながら週次でアドバイザー型研修を提供します。		
特徴	4つのKATAを組み合わせ、現状分析から課題の構造化、あるべき姿の設計を実践します。日常業務でも役立つ知識が身につく、しかも実践に即つながります。	入門コースで学んだKATAについて、より実務で「活用できる」ことを目指した伴走型研修です。実務テーマのモデリングとレビューにより、実践の勘所や気づきにつながります。	新規事業創造KATAとプロジェクトマネジメントKATAを用いて未来型システム思考によるワークを多数こなすことで、実践に向けた知識と基本スキルを獲得します。	新規事業創造の方向づけから展開と定着まで実際の事業創造を活動を通じて、各種KATAの応用と実践スキルを獲得します。新規事業創造入門コースの受講が前提となります。	SEの最も基礎的な考え方である「視点を分けてシステムを可視化し、整合性を保ちながら設計する」を自動販売機のような身近な題材を使って、ワーク形式で学びます。	業務上の課題を構造化し、SEを適用するためのKATAをテラリングします。KATA活用状況の確認、モデリングに対するレビューを週次で行い、定着を支援します。		
価格	入門コース: 1万円/時間/人(動画や個人ワークの時間を除く) 実践コース: 10万円/時間/チーム を目安にご提供しています。詳細な価格はご相談ください							
人数制約	最低4人	1チームあたり 1チーム最大6人	最低4人	1チームあたり 1チーム最大6人	最低4人	1チームあたり 1チーム最大6人		

準備中です。
ご相談ください

研修の概要と価格

コース名	未来型システム思考 入門	ペジテの自転車	拡張研修 共通	ワークショップ 共通
時間	4時間	4時間	拡張研修単体での提供は 行っており、専門研修 との組み合わせになりま す。 お問い合わせください	4時間※1
概要	未来型システム思考とその基本概念の説明を前半で行い、後半で Balus を使った簡単なワークを体験します	自転車の新製品開発を題材にしたボードゲームを通じて、未来型システム思考の必要性を体験していただきます		チームを対象に、Balus を実際に使いながら業務課題を題材に様々なワークショップを提供します
特徴	広くみなさんにご参加いただくことをお勧めします	新人やインターンなど、まだあまり実務経験がない方でも楽しんで必要性を感じられる内容になっています		経験豊富なレヴィのファシリテーターにより普段あまりできない会話や本音を引き出して可視化、アクションへと導きます
価格	20万円	20万円		40 万円/回※2
人数制約	人数制限なし	最大 16 名	最大 16 名	

ワークショップの一覧

課題抽出 KATA WS	ふりかえり KATA WS	MTG KATA WS
現状分析 KATA WS	課題構造化 KATA WS	あるべき姿の 設計 KATA WS
情報設計 KATA WS	ユースケース 画面設計 KATA WS	アーキテクチャ設計 KATA WS
施策選定 KATA WS	VPM KATA WS	BMC KATA WS

※1 ワークショップによっては標準の時間が異なる場合があります

※2 複数回実施の場合など値引きいたしますのでご相談ください

研修提供例) DX/業務改革

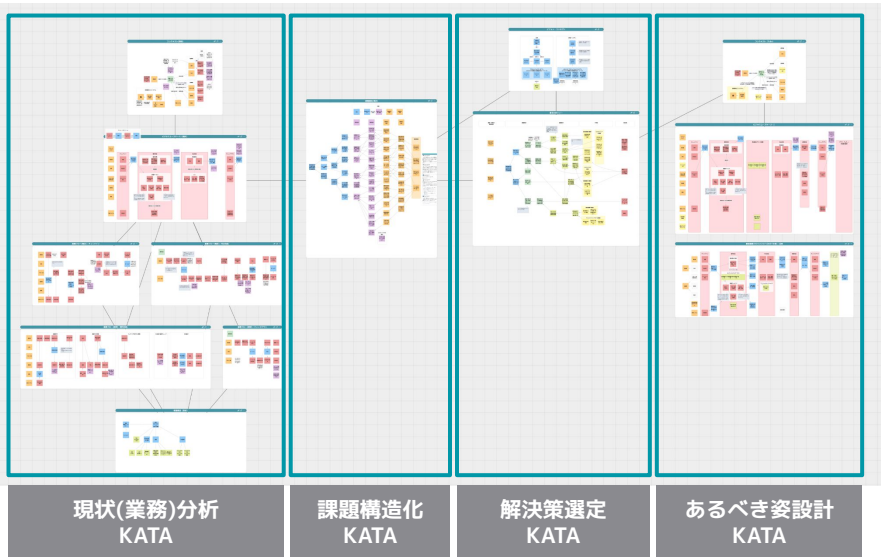
DX/業務改革研修の概要

DX/業務改革の根幹となる 4 つの KATA を習得/実践し、実務へとつなげます

DX や業務改革を進める中で「ただ IT を使うだけになってしまい根本解決できていない」「課題の全体像がつかめない、どこから手をつけていいかわからない」「人によって言うことが違う、全然まとまらない」といった課題を感じていないでしょうか？

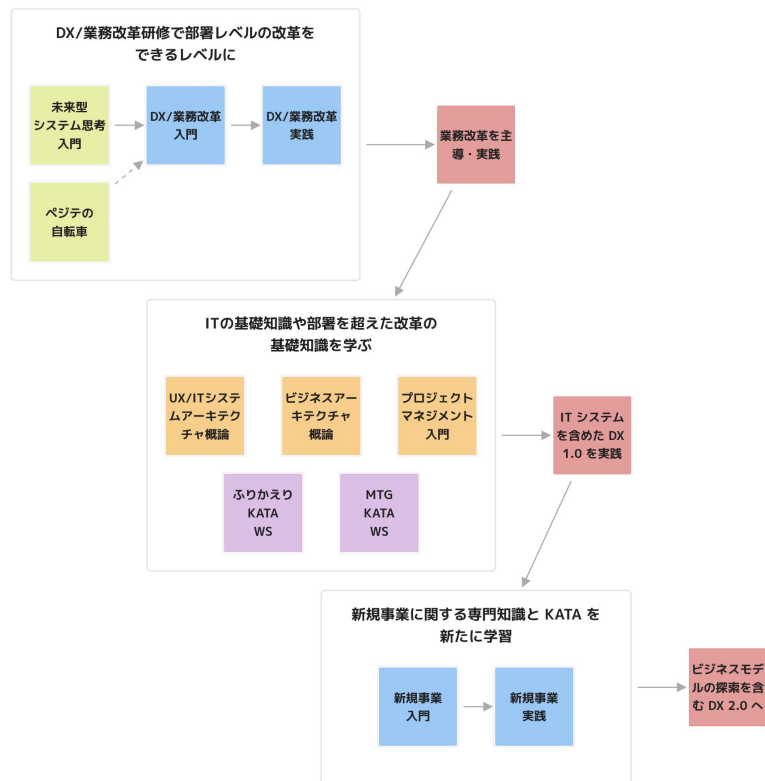
DXや業務改革の根幹にある「変化」を実現するにはITや業務の知識はもちろん、複雑さ、特に変化の前後で何を変えて何を変えないのか？を適切に見定めて合意形成をしていく力が必要です。

DX/業務改革研修では、そのための基礎になる4つのKATAを習得し、それらを組み合わせて行き来しながら(一方通行ではなく)、課題の本質をあぶりだして、あるべき姿を描くためのスキルを学び、実践へとつなげます。



DX/業務改革研修による人材育成イメージ

適切な KATA を使いこなし、変革に必要な力を身につける

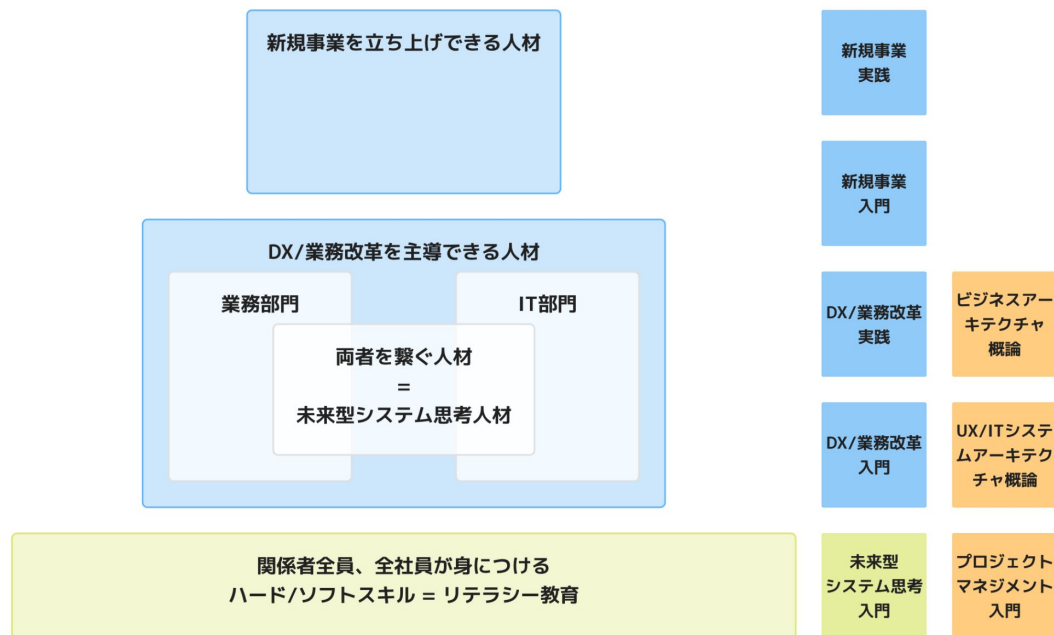


DX/業務改革のレベルは業務をITで置き換えるようなものから、ビジネスモデルの変革を伴うものまでいくつかの段階があります。

例えば、業務部門の中堅人材を対象にする場合、DX/業務改革研修でまずは部署レベルの業務変革を実現できるようになった上で、ITの基礎知識(いわゆるEラーニングなどで身につくものはレヴィィでは取り扱わず、ソフトウェアを作る際の設計に関する知識を扱う)やプロジェクトマネジメント、ビジネスアーキテクチャなど、IT部門や他部門を巻き込んで変革を進める力を身に付け、さらに新規事業を伴うものへと、段階的に複雑さや不確実性の範囲を広げていくような研修を提供できます。

DX/業務改革研修による人材育成ポートフォリオ

目指す人材像・構成によって、対象を柔軟に選定



業務部門とIT部門の構成やITリテラシーの引き上げ状況、目指す方向性などひとくちにDXと言っても企業により置かれている状況、目指す人材ポートフォリオは様々です。

Eラーニングを活用した広く薄いリテラシー教育と、伴走的な深い研修を組み合わせ、実際に変化を起こす際に中心となる人材が動きやすい状況を実現することが重要です。

他社提供の研修プログラムとの組み合わせも考えた上で一緒に検討を行います。ご相談ください。

コンサルティング

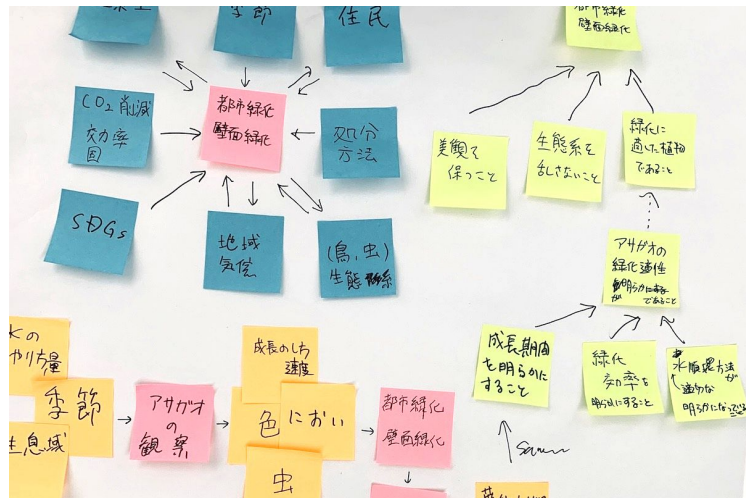
未来型システム思考で課題解決

伴走型のコンサルティングでお客様と一緒にレヴィが課題解決を行います

「未来型システム思考を身につける前にまずは課題解決を行いたい」「自分たちだけでは不安」と言った声にお応えして、レヴィと一緒に課題解決を行うコンサルティングも提供しております。

Balus を使って課題分析から解決に必要な KATA を選び、あるいは一緒に作り、モデリングと対話を通じて一緒に課題を解決していきます。

フェーズを分けて、変化する課題の状況や関係者に応じて柔軟に対応させていただきます。



コンサルティングの実績と料金

まずはご相談ください



実施例

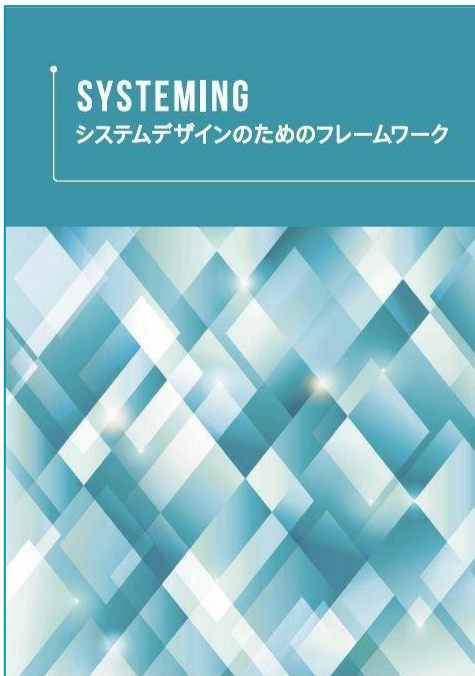
- 宿泊システムの上流設計
 - 200万/月 x 12ヶ月
- 在庫管理のDX 伴走
 - 180万/月 x 6ヶ月
- 製品開発のシステム設計
 - 200万/月
- 新製品の企画設計
 - 60万/月 x 6ヶ月
- 業務分析・設計
 - 60万/月

どこまで深く関わるか、KATAの開発を伴うか、などによって金額が変わります。

コンテンツ

未来型システム思考に関連するコンテンツ

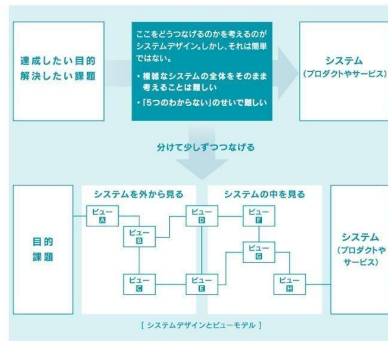
レヴィオリジナルのフレームワーク



描かれたビューに分けてシステムを理解し、整合性リンクをとりながらビュー間の整合性を考えることで、システムエンジ
3階層を実現しながら目的とシステムをつなげることができます。

人はシステムの全体を一度に考えることができない上に「5つのわからない」が邪魔をするために、目的からいきなり
具体的なシステムを考えるとできません。それは、非常に幅の広い川をひとつ飛び越えようとすると同じで、
まず upstream までつなぐことで少しづつ泳いでいくために飛び石を配置する必要があります。それがビューモデルに配置
されたそれぞれのビューに相当します。そして整合性リンクは、2つの飛び石が繋がる距離に相当することを表しています。
整合性リンクが飛び石のビューの間で整合性を保ちながらシステムの流れをモデルとして描いていくことで、システム
デザインを進めることができます。

システムエンジでは、ビューモデルの目的(左欄)から出発して整合性リンクを描きながらビューに相当するモデルを完成
させ、システム(右欄)までつなぐことでシステムデザインを達成します。目的からシステムにいきなり飛ぶ(整合性を
とる)ことはできませんが、飛ぶことのできる距離に飛び石(ビュー)を置きながら少しづつ泳いでいくのです。



5-2. ビューモデルの構成要素

ここではビューモデルに登場する様々な要素についてあらかじめ整理しておきます。

目的・課題

この部分は、システムデザインが複雑で多岐にわたるものになるにつれて、ますます出所企業やプロ

システム

ビューモデルがシステムデザインやサービスデザインのプロセス、3-3-1. シス

ビュー

ビューモデルビュー(P13) 画面構成やシステム下部のように、どの部分も

目的課題

大きな

ビューモデルは、システムデザインで使われます。大きく、小さく、

「誰でも未来型システム思考を上手に実践することができる」を目指して構築したフレームワークです。

システムエンジを効果的に習得・実践するためのツールや教材も開発しています。

レヴィのホームページからガイドブックをダウンロードできます。

<https://levii.co.jp/downloads/guidebook-02/>

その他のガイドブック、資料



サルでもわかるNASA式システム開発

NASAが公開しているシステムズエンジニアリングハンドブックを、できる限り簡単にして、誰にでも読みやすいようにブックレットにまとめました。

宇宙開発を進める上でNASAが重要だと考えている様々なノウハウについて、日本語で簡単に読むことができるのはここだけです。



システム思考ガイドブック

システムデザインをマスターするためには、設計対象をシステムとして捉える「システム思考」が必須です。

分かりそうでわからなかった「システムとは何か？」や「システム思考ってどんな考え方？」という問いに対してはっきりとした定義を与え、システム思考を身につける第一歩をガイドする冊子をつくりました。



システムモデル入門ガイド

システムを自然な形で表現した図である「システムモデル」の描き方や、設計プロセスにおける活用方法について解説した入門者のためのガイド資料を公開しています。

システムモデル入門ガイド① コンテキスト
システムモデル入門ガイド② 業務フロー

※ガイドブック、資料はレヴィのホームページからダウンロードできます